



YouTube

卒業生に聞く! ESGと今の学びについて

▶ SDGs & ESG (Environment / Social / Governance)

大学時代に身に付けた

国際的な視野と経験を基に

企業の社会的価値を評価する

ESGアナリストという仕事

■ ESGの仕事、国際学科で身に付けてほしいこと

皆さん、ESGという言葉聞いたことがありますか。国連が定めた持続可能な開発目標SDGsと実は似通っている部分があります。ESGが金融業界で使われているのに対し、SDGsは社会全体で使われています。

ESGは環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)の頭文字を取って作られた言葉です。企業を運営するうえで重要となる利害関係者のことをステークホルダーといいますが、株主に加え、従業員や顧客、地域住民・社会全体のコミュニティも含むマルチステークホルダーを大切に経営に変化してきました。



飯田 夏木さん

■ 外資系金融会社 アナリスト

2015年度東海大学教養学部国際学科(現・国際学部)卒業。在学中は英国エセックス大学への留学、米国でのインターンシップなどを経験。卒業後ロンドン大学大学院に留学し、開発学について学ぶ。修了後、現地のESG格付け機関に就職。2020年10月に日本に帰国し、ESG評価企業を経て、現在は資産運用会社でESGアナリストを務めている。

かつて株式会社では、株主が一番重要だと考えられてきましたが、企業を取り囲む全てのステークホルダーに対して還元することが求められる時代になってきているのです。

環境面では、気候変動が大きな課題となっており、自然災害の発生によって、工場が閉鎖されるなど経済的に大きな損失を被ります。そこで企業は、気候変動の影響に適応するためにもリスク分析に取り組む必要がありますし、企業としても社会へのインパクトを低減するためにCO₂排出削減にコミットしなくてはなりません。

現在私は資産運用に関わる仕事をしていますが、ESGがなぜ重要かという、もしESGに取り組んでいない企業、例えば石炭を今と同じように採掘する企業があったとして、皆さんは投資しますか。多分「ノー」だと思います。そのような企業は外部環境に対応し、ビジネスモデルの変革をしていくことが課題となるでしょう。

顧客側も環境に優しい会社に投資や応援をする意識が変わってきています。国際学部で学ぶ皆さんには、世界で起きている問題に関心を持ち、国際的な判断軸を養ってもらえたら、ESGアナリストである私としてもうれしく思います。

■ ESGについての質疑応答

——企業のESG評価を行う際の指標となる数値やデータにはどのようなものがあるのでしょうか？

飯田 評価を行う上で一番大切になるのは、その業界内での相对比较です。同じ業界内でどのような位置にあるか、評価を行います。環境面ではCO₂の排出量、水の使用量、社会的な面ではダイ



バーシティ=多様性の達成度として女性の管理職の割合といったデータを集めますし、工場で起きた事故や従業員の不祥事などもガバナンス評価の対象になります。

——ESGはマルチステークホルダー主義ということですが、ステークホルダー間で利害が対立する場合はどうなるのでしょうか。例えば、環境に悪影響を与える素材で製品を作っていて、その素材を使うのをやめようとなったとき、その素材のサプライヤーは仕事を失うことになってしまいます。

飯田 社会がシフトしていくときに、取り残される人が出てくるというようなケースですね。それは石炭産業で顕著になっている話題で、炭鉱で働いていた人たちは再生可能エネルギーの登場によって職を失っています。SDGsでも「誰一人取り残さない(Leave No One Behind)」という考え方や、「Just Transition(公正な移行)」という考え方があります。新しいものに移行するには、すぐにはできないわけで、その移行期間どのようなサポートを行うかが重要な政策課題になります。

——ESGの評価は、専門家を派遣して調査するのでしょうか、それとも企業から提供されたデータで評価するのでしょうか。

飯田 ESG評価は企業の情報開示に頼っている面が大きいです。現場で何が起きているか見えてこない部分も多く、課題はあります。ただ最近では、コンサルティング会社が企業と一緒に人権の取り組み方針を決めたり、企業側にもESG担当を置いて積極的にESGやサステナビリティに取り組んだりするようになってきています。